

2度目のリズモー訪問

私にとって、リズモー市へは今回で2度目の訪問だったので、新しい出会いはもちろん、ジェニー市長さんをはじめ、前回出会った人たちと再会するのをとっても楽しみにしていました。自然が大変豊かで、コアラやカンガルー、



高田商業高等学校教諭
小川 実加



クジラやイルカを見ることができました。また、パイロン湾付近の散策は、とても美しい景色が広がり私のお気に入りのひとつです。ホストファミリーの温かさに感動し、出かけたり話したりするのがすごく楽しかったです。

貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。これからもリズモー市と大和高田市との絆がより一層強く結ばれるよう願っています。

水害募金をリズモー市へ届けました

6月3日から降り始めた大雨と強風で、オーストラリア・リズモー市が甚大な被害を受けたことにより、リズモー市への水害募金を大和高田市の皆さんへ募りました。集まった募金額は、628,000円でした。このお金は、大和高田・リズモー都市友好協会が派遣している学生が、7月29日のリズモー市長表敬訪問の際に、ジェニー・ドゥエル リズモー市長に渡しました。



お礼のこたば

ジェニー・ドゥエル リズモー市長

「本当にありがとうございます。とても感動しました。これは、大和高田市がリズモー市と両市の深い友好関係に対して持っている気遣いと敬意を示すものです。このお金は、水害に対処した、災害時緊急対策室 (State Emergency Service) に渡すべきだと判断しました。このお金は、資金として歓迎されるでしょう。」

※平成28年11月1日現在のリズモー市長は、アイザック・スミスさんです。



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田・リズモー都市友好協会 発行
2016年 秋号

No.169

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会
TEL：0745-22-1101
<http://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/>

このバンブーシューツ（筍）が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように

バンブー・ イングリッシュ 開講

国際交流事業のひとつとして、英語にふれあい楽しめる講座を月2回開催しています。市内在住の4歳から12歳の子どもを対象に、幼稚園クラスと小学生クラスがあり、外国人講師のクラウド・ロペスさんと協会会員と一緒に五感を使って、歌ったり踊ったり、日常生活の身近なテーマで英語に親しみながら簡単な日常英会話を楽しめるようなプログラムです。



講師

クラウド・ロペスさん
アメリカ出身 大和高田市在住
現在 ALT として奈良県の幼稚園や小学校で英語指導に携わっています。



成功への道！

日本に来て家族と共に大和高田市に住んでみて、私は大和高田市は特別な特色を持つ場所だと思うようになりました。大和高田・リズモー都市友好協会があり、バンブー・イングリッシュというプログラムがあることを知らされたとき、熱心に英語を学ぼうとする生徒さん達に英語を教えるには、またとない素晴らしい市だと思いました。宇陀市で ALT (Assistant Language Teacher) として働いていますが、毎日のように、生徒さんや先生までもが将来の役に立つように、もっと英語を学んでおきたいと思っていることを知りました。

個人的には、私の英語の教師としての目標は、大和高田市に住む生徒さん達が、本当に英語を学びたいと思っているのを知っていますので、彼らが第二外国語としての英語を学ぶお手伝いをしたいということです。バンブー・イングリッシュ・プログラムは、子どもたちや特に彼らの親たちが、とても楽しく前向きに英語を使って交流するのに、本当に素晴

らしい機会となっていることから、私は心からこのプログラムが好きで、学生達が彼らの目標を達成する手助けを一生懸命に頑張っていきたいと思っています。

このプログラムは、経験豊かな日本人の先生方とチームを組んで、とても楽しい授業が受けられるようになっています。また、日本人の先生方は、生徒さん達がもっと授業に熱中できるようにその工夫もしています。バンブー・イングリッシュ・プログラムは、私が更に立派な英語教師になれるように手助けをしてくれていますし、導いてもれています。このプログラムを通して私は、学びたいと思う人なら誰にでも出来る言葉の学習をお手伝いしながら、皆さんと親しく交流をしています。子どもさん達が新しい言葉を使って直接に何かを経験されるためにバンブー・イングリッシュに通われることは、貴重な機会になることでしょう。(英語は、原文のとおりです)

リズモー市への派遣学生アンケート



1) リズモーの街を見て感じたことは？

- ・日本とは違いレンガ造りの建物が多くて綺麗だった
- ・自然が豊かで、牛などが放牧されていた
- ・全体的に広く綺麗な町並みだった
- ・信号がとても少なくて驚いた
- ・道は高低差が大きく、交差点では円を描くように曲がるので少し変な感じがした

2) 観光して良かった場所・印象に残った場所は？

- ・バイロンベイの灯台と海がとても綺麗で良かった。野生のイルカが泳いでいた。
- ・全て良かったです。休みの日に連れて行ってもらった滝が神秘的だった。
- ・カディナ高校が、とても印象に残っています
- ・ウエストファクトリーです。日本でもなかなかゴミ処理場の中まで入ることが出来ないのに、作業中のところを見学したことです。隣にあるボタニカルガーデンで野生のコアラを見ることができたことも、印象に残った
- ・オーストラリア本島最東端のバイロンベイ

3) 文化・習慣の違いに驚いたことは？

*生活について（不便だったことや困ったこと、また日本より良いと思ったこと）

- ・お風呂はシャワーのみだったから、湯船に浸かりたかった
- ・寝る時間が早い
- ・服をあまり毎日着替えない
- ・トイレの便座が冷たい
- ・ホストファミリーはキリスト教の信仰が深く、王国会館に行って、聖書を読んだり、聖歌を歌ったりした
- ・靴生活は、慣れなかった
- ・日本人には少ないオープンな性格な人が多く、とても気軽に接する事ができた

*学校について（現地の学生との交流・学校生活の違い）

- ・日本と比べて髪型やピアスなどの身だしなみが、とても自由な感じだった
- ・日本の学校よりも校則がゆるく自由で、みんなのびのびと学校生活を楽しんでいた
- ・フレンドリーな人が、多かった
- ・みんな積極的に発言して自由にしていた
- ・日本より芸術系の教科が優れていた
- ・大人と話すより、学生と交流する方が難しかった。
- ・休み時間は外で話したり、お菓子を食べたり、自由な感じだった

4) ホストファミリーと一緒に過ごして印象に残ったことは？

- ・バイロンベイや動物園に連れて行ってくれたことが、とても楽しかった
- ・ホストファミリーに小さな子供がたくさんいたので、一緒に遊んだりして仲良くなった事が印象に残っています
- ・オーストラリアで流行っているボードゲームやチェスのやり方を教えてくれたこと
- ・全て良かった。特に犬の散歩をしている時にホストファミリーとたくさん喋る事が出来たので、楽しかった
- ・休日に動物園に連れて行ってきて、自然にふれたことです。ワニを持って写真を撮ったり、アボリジニのダンスを見たりした。家で子ども達と「ババ抜き」を教えて遊んだり、タブレットでゲームをしたりして一緒に遊んだこと

5) スカイク交流に参加して思ったことは？

- ・スピーチで話した英語が上手だったと言ってくれて嬉しかった
- ・大和高田市とリズモー市の中継点に立っている事を改めて感じた
- ・とても距離が離れているのに、身近に感じられることが素晴らしかった
- ・とても緊張したが、久しぶりに日本語が聞けてほっとした
- ・両市の市長や重役の方々の中でスピーチをして、とても緊張したが素晴らしい時間を過ごすことができた

6) 今回の経験をこれからの将来にどう活かしていきたいですか？

- ・相手の話している内容がわからない時や、自分の言いたいことが言えない時があったので、もっと英語を勉強してきちんと会話できるようになりたい
- ・初めて留学を経験し、更に文化交流までできたというだけで十分これからの人生の糧になったと思う
- ・グローバル化した社会に対応できる、ワールドワイドな人になりたい
- ・英語はもっと勉強するべきだと思った。ホストファミリーといろいろな場所に行ったり、派遣学生でしか行けないような学校や施設に行く事ができたので、この制度をいろいろな人に伝えていこうと思った
- ・人前で話すのは苦手ですが、今回多くの人前でスピーチ出来たことを自信に変えていきたい。オーストラリアで自分の中でいつもより積極的になれたように、これからも前向きに捉えていきたいです

